

# 行政自治会だより

## 第16号

■発行所／古河市行政自治会 事務局 TEL 0280-92-3113 ■発行人／会長 湯本 豊

### 就任のごあいさつ



古河市行政自治会

会長 湯本 豊

古河市行政自治会の皆様におかれましては、日頃より行政自治会の事業等にご理解ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

この度、古河市行政自治会の会長に選出されました第19地区長であり、三和地区小立野第二行政区長の湯本豊と申します。微力ながら精一杯務めさせていただきますので、よろしくお願い申し上げます。

4月14・16日にわたって震度7の地震が発生した熊本地震で被災されました皆様には心よりお見舞い申し上げます。未だおさまらない余震に怯えながらの生活に少しでもお役に立ちたいと、市民の皆様よりお声があり、5月の正副地区長会議にて提案と承認がなされ、行政自治会の皆様に義援金のお願いとなりました。皆様のご協力により集まりました義援金は159団体で8,473,700円となり、日本赤十字社茨城県支部に送金させていただきました。復旧復興にお役立ていただければと思います。

4月以降、茨城県南部を震源とする地震が発生しており、全国各地でも大規模な自然災害が発生しています。「もしも」の場合の「安心・安全」に備え、「自助・共助・公助」のつなぎ役として行政自治会が役割を担っていきたくと考えております。

また、皆様におかれましては、行政自治会についてより身近に感じていただき、積極的に行政自治会や地区及び自治会、行政区の活動に参加していただければと考えております。

一人ひとりの力は小さくても皆様が集まれば大きな地域の力となります。今後ともご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

一人ひとりの力は小さくても皆様が集まれば大きな地域の力となります。

今後ともご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

### 自治会長・行政区長委嘱状交付式及び感謝状贈呈式

平成28年度感謝状贈呈者			
地区	自治会・行政区名	氏名	在職年数
第5	松原町	伊藤利彦	21年
第1	田町	時田恒夫	14年3カ月
第1	紺屋町	重川幸男	13年5カ月
第1	天神町	小倉榮	10年
第1	長谷町	鈴木昇	10年
第9	みどり野	青木宏	9年
第6	もみじヶ丘	印出文雄	7年
第20	並木	今井清造	7年
第12	駒羽根住宅団地	仲山初男	6年
第7	駒ヶ崎	小倉利夫	5年
第1	長谷本町	鈴木勇	5年
第17	新和田	白澤一夫	5年
第1	仲之町	小野寺良	4年
第6	桃ヶ里	小林宏行	4年
第19	清水	小林長一郎	4年

(敬称略 在職年数順)

4月19日、とねミドリ館（生涯学習センター総和）において、委嘱状交付式が行われ、自治会長・行政区長224名と第1～20地区の正副地区長40名へ市長から委嘱状が手渡されました。

続いて感謝状贈呈式が行われました。今回の贈呈者は15名で、21年間ご活躍された松原町自治会の伊藤利彦様が代表挨拶を述べられました。



長い間ありがとうございました

# 熊本地震義援金へのご協力ありがとうございました



古河市長（日赤古河市地区長）へ目録を贈呈しました  
（左より、菅谷市長、湯本会長）

4月14日に発生した熊本地震では、熊本県、大分県を中心に甚大な被害が発生しました。

行政自治会では、被害を受けた被災地に対し、少しでも手助けになればと各自治会・行政区を通じ義援金を募集しました。急遽お願いしたところですが、多くの皆様のご協力により、8,473,700円もの義援金が集まり、7月5日に古河市（日赤古河市地区）を通じ、日本赤十字社茨城県支部に贈呈いたしました。義援金は被害状況に応じて按分され、各被災県に設置された義援金配分委員会を通じ、全額を被災された皆様にお届けいたします。

ご協力いただきました皆様に心より感謝申し上げます、ご報告いたします。

## 正副地区長会議報告

## 役員が決まりました!

4月19日に第1回正副地区長会議がとねミドリ館（生涯学習センター総和）で行われ、行政自治会の新役員が決定されました。

第2回正副地区長会議は5月19日に総和庁舎で開催され、新年度の事業計画や予算について協議し、承認されました。

役員名簿及び正副地区長名簿については、下記のとおりです。

正副地区長名簿

地区名	地区長	副地区長
第1	小堀英男（桜町）	須田昭二（観音寺）
第2	綿引正衛（原）	齋藤満（鍛冶町）
第3	横山泰男（下山丁目）	木村榮一（下山丁目）
第4	蜂須誠司（中田町）	上石詔二郎（上町）
第5	中村仁（中横）	塚田昌賢（栄）
第6	浦井章（常盤台）	長濱弘道（三杉町）
第7	熊木津佐雄（鴻巣一丁目）	青柳寛（光陽台）
第8	舘野洋二（小堤）	森福次（川北135）
第9	長濱忍（東泉町）	古谷芳和（今泉）
第10	印出久男（上辺見）	小口進（中辺見）
第11	尾花重次（大堤）	松田義章（みずきの街）
第12	岩元俊二（駒羽根住宅団地）	遠藤孝雄（駒羽根）
第13	五月女光男（内水海）	太田元行（上砂井）
第14	香取茂（葛生）	塚田長剛（下大野）
第15	那須和弥（諸川西部）	鈴木榮治（東諸川）
第16	梅津信男（上片田宮前）	宮本光（上根）
第17	児矢野健行（大和田上）	日毛清（大和田下）
第18	二宮誠（北山田）	吉原正雄（仁蓮上町五）
第19	湯本豊（小立野第二）	小林浩二（沼影第二）
第20	染野則夫（下内）	平間基始男（下尾崎二）

役員名簿

役職名	氏名	地区
会長	湯本豊	第19
副会長	横山泰男	第3
副会長	五月女光男	第13
理事	熊木津佐雄	第7
理事	長濱忍	第9
理事	那須和弥	第15
会計	染野則夫	第20
監事	蜂須誠司	第4
監事	印出久男	第10

## 新広報委員です!



後列左より、二宮誠、蜂須誠司、熊木津佐雄、長濱弘道、松田義章  
前列左より、黒木ヒサ子、梅津信男、岩元俊二、森福次

広報委員の任期満了により、今号から新たなメンバーでの広報委員会がスタートいたしました。

今後も、皆様に愛され、魅力ある広報紙を目指して、紙面の充実に取り組んでまいりますので、是非、ご愛読ください。

また、こんなことを特集してほしいなど、ご意見、ご要望がございましたら、遠慮なく広報委員または事務局までお寄せください。

第12地区は釈迦、磯部、駒羽根、駒羽根住宅団地の4行政区で構成されています。まず、第12地区の紹介をさせていただきます。

### ～第12地区活動内容～

駒羽根交番と連携した交通安全キャンペーン、防犯パトロール、防災意識の向上を目的とした防災体験学習等、安全・安心に係わる活動を行っています。

また、地域の交流として各種スポーツ大会への積極的な参加を心掛けています。更に消防分団との連携を深めるための懇親会を計画しております。



安全運転をお願いします（交通安全キャンペーン）

以下各行政区の紹介をさせていただきます。

### ～駒羽根行政区～

駒羽根行政区は、ネーブルパークを中心に、12町内会、639世帯が暮らしています。ネーブルパークでは、沢山のイベントがあり、大変賑わっています。

また、当行政区には、古河市文化財に指定されている五智如来坐像があります。住民が一体化となれる盆踊り、秋の市民運動会、功労感謝の会などが行われています。本年より新たに1町内会が誕生し、若い方々の積極的な行事への参加と活躍が期待されています。

### ～駒羽根住宅団地行政区～

山林を開拓して造成された北利根工業団地とそこに働く従業員の住宅の建設により、当行政区が誕生しました。当初は釈迦小学校にこの児童は入学しましたが、人数が多くなりすぎ新たに、駒羽根小学校が建設され現在に至っています。

当行政区は住宅地と小学校が隣接しているところから、安全な環境が必要です。その一環として、「ゾーン30」の運用が平成12年より開始され

ました。これは生活道路の安全を確保するため道路管理者と連携し、一定のゾーン内の道路を時速30kmに規制を図ることです。今後も安全で安心なまちづくりに励みます。

### ～釈迦行政区～

当行政区は国道354号線を挟み7町内会、344世帯で構成されている地域です。中心には釈迦小学校があり、付近に香取神社、寺院の金乗院、観音堂（葛飾坂東第10番札所）が隣接しています。7月の夏祭りでは、7町内を2日間かけて子供神輿とお囃子会の山車が巡行します。他にも納涼盆踊り大会、敬老祝賀会等沢山人出で盛大に執り行われます。先人の残した行事を後世につなげたく頑張っています。

### ～磯部行政区～

当行政区は国道354号線が東西に走っており、南側は市街化調整区域で北側でも一部を除き調整区域のため、ここ数年人口は増加せず307世帯が暮らしています。磯部に住所のある人は現在1,417名となっています。

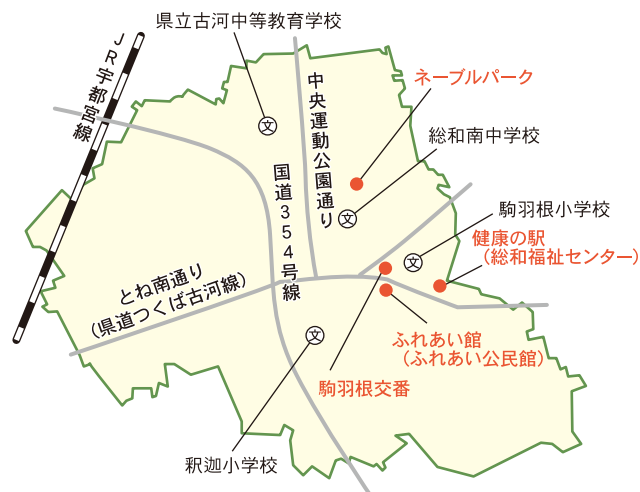
行政区には5つの町内会があり、うち4つの町内会では各町内会ごとに、氏神様を持ち大切に祀っています。以前から磯部地区は農業が盛んで、大根、キャベツ、カボチャ、白菜等が栽培され高い生産高を誇っています。

また、平成25年に茨城県では3番目となる中高一貫校の茨城県立古河中等教育学校が当地に開校されました。今後は地元としても、大切に见守っていききたいと考えています。

以上で第12地区の紹介といたします。

（第12地区 地区長 岩元俊二）

## 第12地区 区域





## 市内歴史散歩（第14回）～飯沼大蛇伝説～

古河市には、毎年8月に大蛇が現れる地域があります。そこは、仁連小学校コミュニティ団体じゅうにひとえの会「夢追いまつり」。

この祭りでは盆踊りの合間に、飯沼に住んでいたという大蛇の張り子が登場し、会場内を練り歩きます。



大蛇が登場すると、歓声が上がります

かつて三和地区から坂東市にかけて広がっていた「飯沼」と呼ばれた沼地。この飯沼に伝わる不思議な大蛇伝説を、じゅうにひとえの会役員の関根ひろ子さん（八俣新町）に伺いました。（以下関根さんS、二宮N）

「おかしむかし、飯沼が開拓されてできた西仁連川と東仁連川の間にある飯沼たんぼに、大きな蛇が住んでいたというお話です。その長さは、仁連から石下（常総市）までとどき、たんぼを占領してしまったので、農民たちは、米がとれなくて困っていました。」（S）

「蛇の大きさがピンときませんが、とにかく大きかったんでしょね。」（N）

「うん、大きかった。そこで困り果てた村人たちは、みんなで相談して、大蛇に、どうかしばらくの間、よそに移ってくださいと、お願いに行ったそうです。」（S）

「擬人化ですね。いよいよ昔話っぽくなってきた。」（N）

「まあそうだけど、交渉の結果大蛇は、そんなに言うなら十年間だけ、よそへ行ってやろうということになりました。」（S）

「ずいぶんと物わかりのいい大蛇ですね。」（N）

「そうでしょ、完全に大蛇が擬人化された話なんだけどね、しかも約束は口約束ではなく、証文を取り交わすという正式なもの。」（S）

「ここまでくると、証文に大蛇がどうやって署名したのかが疑問ですけど。」（N）

「まあ、言い伝えだから……。とにかく、十年間だけよそへ行くという証文を取り交わしてね、そのとき村人が大蛇に気付かれないように、十の上にノの字を書き加えて千年にして……。」（S）

「なるほど、それで千年の間、よそへ行ったという話ですね。それにしても、大蛇が証文に従うというのは……。」（N）

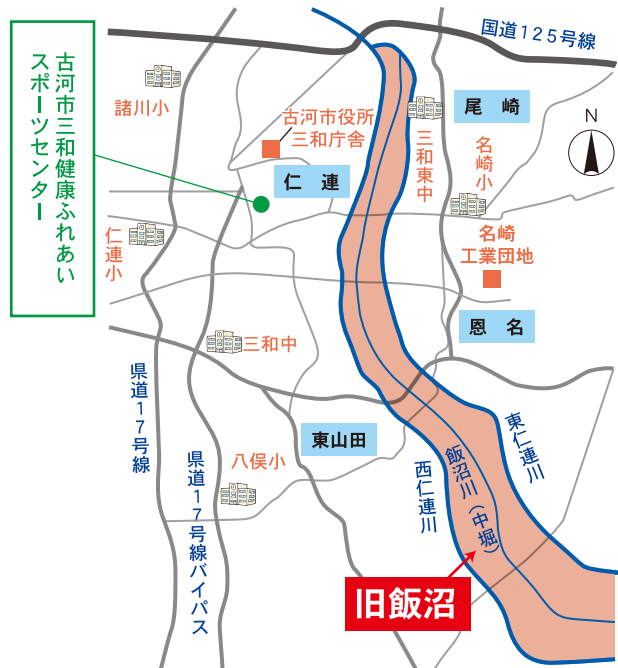
「だから、昔話で、伝説なの。礼儀正しい大蛇がいてもおかしくない。」

この話の舞台の飯沼新田は、「飯沼三千町歩」の美田とうたわれながらも、もともと沼地だったので排水が悪くて、農民は、水との苦闘の連続だったみたい。」（S）

「一気に現実的になりましたけど……。」（N）

「もしかしたら飯沼伝説の大蛇は、洪水や干ばつなどの大規模災害を表しててね、この伝説は、みんなで知恵をしばって協力しあって災害に立ち向かったというお話じゃないのかな。」（S）

「うーむ。納得です。これぞまさに先人たちの地域の力、そしてコミュニティの歴史そのものではないでしょうか。私は、こんな素晴らしい地域を誇りに思います。」（広報委員 二宮誠）



### じゅうにひとえの会「夢追いまつり」

- ・日時 平成28年8月27日（土）  
午後6時30分（盆踊り開始）
- ・場所 古河市三和健康ふれあいスポーツセンター  
駐車場

### 編集後記

前広報委員長伊藤利彦氏が15号を最後に退かれました。長年にわたって編集に携わりありがとうございました。

本号より10名中7名が交代し、新体制で紙面づくりのスタートを切ることになりました。「行政自治会だより」は、引き続き市民の皆様へ行政自治会・自治会・行政区等の活動状況及び地域の話題等の情報を提供していきたいと考えております。市民の皆様のご意見等をお聞かせください。（広報委員長 梅津信男）

### 訃報

平成28年4月9日、西鷹匠町自治会（第1地区）の飯塚博英会長がご逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。

### 行政自治会広報委員会

委員長 梅津 信男  
委員 横山泰男 蜂須誠司 長濱弘道  
熊木津佐雄 森福次 松田義章  
岩元俊二 二宮誠 黒木ヒサ子